

# 高等学校 第2学年 国語科（古典B）学習指導案（略案）

指導日時：平成29年10月10日（火）第4校時  
指導学級：第2年3組（男14名，女子27名）  
指導者：宮城県石巻西高等学校教諭 寺下 成美

## 1 単元名 「物語」 「竹取物語『天の羽衣』」（東京書籍「新編古典B」）

- ### 2 単元の目標
- 1) 古典としての古文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。  
(関心・意欲・態度)
  - 2) 古典としての古文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。  
(読む能力)
  - 3) 古典に用いられている語句の意味や用法、文法事項を活用し本文を正しく現代語訳する。  
(知識・理解)

### 3 生徒の実態

本クラスは、普通科2年の生徒である。授業でペアワーク、グループワークを活発に行う生徒が多い。音読もしっかりと声を出して読もうとする生徒が多い。古典に対して苦手意識を持っている生徒もいるが、内容が理解できない生徒に対して、古典が得意な生徒が説明して教えているような姿も見られる。また、自分の考えやそのように考えた根拠を自分の言葉で分かりやすく相手に伝えようと、表現の仕方を工夫している生徒も増えてきている。しかし、古典に苦手意識を持つ生徒の中には、うまく自分の考えを伝えたり、説明したりすることができない者もいる。

## 4 本時の指導

### (1) 題材名 「竹取物語『天の羽衣』」

### (2) 本時のねらい

新しく学習した助動詞や敬語を活用して、本文を正しく現代語訳する。

### (3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価規準	Aとする具体的な姿
知識・理解	今までに学習した文法事項や、新しく学習した「助動詞」「敬語」の知識を活用し、本文を正しく現代語訳できる。	既習の文法事項を活用し、「助動詞」の意味の判別と「敬語」の訳を正しく行い、なぜそのような現代語訳になったのか説明できる。

### (4) 学習指導上の工夫

- ・すべての生徒が、目的意識を持てるよう、授業冒頭に本時の学習目標を確認する。
- ・ペアやグループで活動させることで、知識の定着と知識の活用を図る。
- ・丁寧な机間巡視を行い、ペア・グループ学習を促すと共に、遅れている生徒に対して適切な支援をする。

### (5) 準備物

教科書 学習プリント 筆記用具 古語辞典 体系古典文法

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問	形態	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	1 前時の復習 ・敬意の方向について ・二方面に対する敬語表現について  2 本時の目標を口頭で確認する。	ペア  一斉	前時の内容を、他者に説明することで思い出させる。  目標を全体で確認することで本時の目標を意識させ、授業へ臨む姿勢を作る。	
学習した知識を使って、班で意見交換しながら本文を正しく現代語訳する。				
展開 (40分)	3 本文の音読 ・教科書 24 ページ 8 行目～25 ページ 3 行目の和歌まで正しく読めるかペアで確認する。  4 敬語の知識の確認と定着 ・前回の授業で学習した7つの敬語についてペアで問題を出し合いながら暗記する。  5 過去の助動詞「き」と推量の助動詞「らむ」について ・学習プリント裏面でそれぞれの助動詞を紹介する。  6 本文の現代語訳 ・4～5 人グループで学習プリント A～C の部分を現代語訳をする。  ※現代語訳に時間がかかることが予想されるため、以下は生徒の様子に応じて進める。  7 現代語訳の発表 ・班の現代語訳を、なぜそのような訳になったのか説明する。	ペア  ペア  一斉	・机間巡視で正しく読めているか確認する  ・生徒の様子を観察し、積極的なペアワークになっているかどうか確認する。  ・活用、接続、意味の三点で助動詞を覚えることを強調する。  ・活動が滞っている班に対しては活動を促す声掛けを行う。  ・うまく説明できていない部分は、教員側で補足の質問をするなどの補助を行う。	【知識・理解】 今までに学習した文法事項や、新しく学習した「助動詞」「敬語」の知識を活用し、本文を正しく現代語訳できる。
まとめ (5分)	6 本時のまとめ ・本日学習した内容、次回の予告をする。	一斉	・もう一度本時を振り返り、学習内容を確認する。	

(7) 学習プリント (別紙)